

# SABO NEWS LETTER

1頁

第9号

【発行日】：1999年2月2日

【発行】(社)全国治水砂防協会

拝啓 市町村長様

東北・北陸 及び 日本海沿岸の首長さんには、新年早々の  
大聖に御苦勞さした事とお見舞申し申し上げます。100%全般的  
にはおどやかな流れの中平成11年度の予算審議を終了した国会  
が閉会されました。1日も早く予算が成立し、そのおかげで補正  
とともに地域の実情対策が与えられることを望んでおります。

今回の報告では、まず地方自治の研鑽にありおた「今後の  
研防事業のあり方、特に直轄研防、地産研防のあり方」に因り  
子委員会からの中間答申が与えられた事をあげております。また、  
21世紀の研防として今後一つの流れをなす「緑を活用した研防  
事業」についてのセミナーの報告があります。11月にも次世代への  
研防のあり方に係るもので「新らしい News」として一読して下さ  
いませう。昨年は、我が国に与った、世界的にも大災害の  
多かったです。イタリヤ、ネパール、中国、そして最も悲惨なのが中南米  
での10月のハリケーン「ミチ」の災害でした。死者11,000名行方不明13,000  
名とも言われている災害の支援をしております。日本に与った(世界中が安全  
に与えられなくて)ですね。

池谷 浩

## 目 次

( 頁 )

1. 建設省砂防部長より . . . . . 1
2. 「今後の砂防事業のあり方について」中間報告まとまる . . 3
3. ネパール, インドの河川・砂防事情の視察 . . . . . 4
4. 「緑のゼミナール」開催される . . . . . 5

## 「今後の砂防事業のあり方について」中間報告まとまる

わが国は、地形が急峻で地質が脆弱であり、地震、豪雨等によって土砂災害が発生し貴重な人命・財産が失われています。そのため砂防事業により鋭意整備が進められているところです。

今後とも次世代へ安全で豊かな国土を継承していくためには、経済・社会の変化に対応した的確な砂防事業を実施していく必要があります。

このような状況を踏まえ、経済・社会の変化に対応した今後の砂防事業のあり方について、「今後の砂防事業のあり方に関する検討委員会（委員長：武居有恒・京都大学名誉教授）」を設置し、効果的かつ効率的な砂防事業の実施方策について検討を重ねてきたところです。

この度、標記検討委員会の中間報告がまとまり、平成11年1月21日委員長から河川局長に報告されました。

### ○経緯

平成10年10月16日	第1回検討委員会
平成10年10月29日	第2回検討委員会
平成10年11月19日	第3回検討委員会

### ○検討内容

高齢化、過疎化、地球温暖化等社会情勢・自然的条件の変化を踏まえ土砂災害から人命・財産を守る砂防事業の的確な実施のため、国と地方等の果たすべき役割、直轄事業のあり方について検討。

- ・役割分担を検討するにあたっての視点
- ・国と地方等の果たすべき役割
- ・直轄砂防事業のあり方について
- ・直轄地すべり対策事業のあり方について

(上記に関する問い合わせは、河川局砂防部砂防課企画係まで)

## ネパール、インドの河川・砂防事情の視察

● 傾斜地保全課 特定斜面整備対策官 高橋透 ●

正月の3日から11日まで、吉井一弥河川局次長を団長として、私ほか1人の計3人チームで、ネパールとインドの河川・砂防事情を視察して参りました。

最初の訪問先であるネパールでは、水資源省事務次官が、今後の治水・砂防への取り組み決意と、治水砂防技術センタープロジェクトに対する日本政府援助への謝意と熱い期待を述べられました。モデル工事箇所などの見学現場では、コミュニティを重視した事業の新たな取り組みや、日本の砂防関係ボランティアの支援による現地小学校への防災知識の普及などユニークな活動が展開されていました。本当に心温まる歓待を受け、また、現場見学の合間には、8千m級のヒマラヤの雄大な嶺々が、白-ピンク-青紫と刻々変化する残照を、時間が経つのも忘れて見入ったほか、古都カトマンズの由緒ある史跡の数々まで、豊かな風物に接することが出来ました。

次のインドでは、水資源行政についての水資源省幹部との意見交換を行って参りました。諸外国の利水ダムの堆砂対策まで引用しながらの、自信に満ちあふれる整然とした説明に、原爆開発やコンピュータ産業の振興などで意気上がる大国インドを垣間見たような気がします。ヒンドゥー教の聖地ベナレス市の人、牛、車の凄まじい雑踏、朝日の中で繰り広げられている河畔での火葬、とても汚いガンジス河での沐浴光景や、イギリス統治の影響のうかがえる首都デリー市の雄大な都市計画などを目の当たりにして、5千年の歴史と伝統を受け継ぎながら9億人の人間が織りなす混沌と喧噪に、なるほど世界は広いと思ったものです。

## 緑のゼミナール開催される

砂防関係事業において、「緑」の効用が改めて見直されており、現場の担当者の方が、「緑」を使った工法の活用と緑の保全・管理について意見を交換するために、(社)全国治水砂防協会の主催により「緑のゼミナール」が1月25日(月)に砂防会館で約500名の方の参加を頂き開催されました。

今年は、現場の皆様から要望の多い「緑の斜面づくり」をテーマに行われました。

ゼミナールの主な内容は、次のとおりです。

### ○講演

- ・「緑と共生するために」 建設省池谷砂防部長
- ・「緑の斜面づくりの現状と課題」 小橋京大名誉教授
- ・「斜面における植物群落の形態について」  
大手京都府立大名誉教授

### ○パネルディスカッション

- ・「緑の斜面づくり工法の現状と将来の課題」および「みんなで語る緑の保全と管理」

当日は、会場の皆様からの質問にも、講師が具体的に回答するなど、実り多い内容となりました。

上記に関する問い合わせは、(社)全国治水砂防協会まで